



<http://aoba.kgnet.gr.jp>

神奈川ネット



青木マキ 前横浜市議員

横浜市議員 **平田いくよ**

二度と繰り返さないために カジノ事業の検証を —青木マキ



青木マキから2年間の取り組みを報告

11月9日「カジノを考える市民フォーラム」の報告集会が開催されました。静岡大学鳥畑与一教授は「カジノの終焉」と題した記念講演の中で「横浜のカジノ撤退はミラクルだった」と発言、現在も誘致事業が続く、大阪、和歌山、長崎の危うい現状をお話されました。IR事業者の相次ぐ撤退。今やIR整備法で求められた大規模会議場の設置といった条件を満たすのが厳しいとされています。コロナ禍やデジタル化で、大きく変わった社会とそれに逆行するカジノ・IR構想の不合理性がより鮮明になりました。

横浜においては、市民の手によって最悪の事態は回避されましたが、カジノ誘致事業は2年の間、多額の予算と人員が割かれ、市民を置き去りにした市政の大きな誤りです。横浜市は、この事業の細かな検証を行うべきです。また、IR関連法の廃止に向けてもアクションを続けます。

スマートフォンや携帯電話は、もはや私たちの生活に欠かせない道具となり、多くの場面でその恩恵を受けています。しかし、一方で、生活に溢れる電磁波に健康を害されている人がいることも見逃せない事実です。



そんな中、「近所の空き地に携帯電話の基地局が立つ計画があるが、不安の声もありなんとかしたい。」という方々から相談が寄せられました。電波の基準を満たしている以上、地権者や事業者に一方的に建設中止を求めることはできないことは理解しますが、今後5G等の電波に変わった際の影響や、未だ解明されていない健康影響への懸念もあり、まずは事業者に説明会の開催を要請することとなりました。

説明会で、事業者は基地局が発する電波の大きさが基準値を大きく下回ることを理由に基地局設置への理解を求めましたが、住民の不安はなかなか拭えません。結果、無理に設置して地域のわだかまりを生むことは、会社の利益にならないという事業者の判断もあり、計画の中止が宣言されました。

携帯基地局は各携帯会社がそれぞれ自社の為の基地局を持つことから、基地局が乱立し、トラブルの増加につながっていると考えられます。総務省では、5Gの普及促進も見据え、基地局の共用化をはかるインフラシェアリングを進めています。携帯会社の足並みを揃えることが難しく、一部実施にとどまっています。今後は、基地局の乱立防止に努めるとともに、地域への情報提供や事業者説明を促す自治体としての取り組みも求められます。今回の事例にも学び、政策提案に生かしていきます。

平田いくよの市議会レポート 一般質問でカジノ・IRについて質問

山中新市長は所信表明で、カジノ・IR誘致撤回を宣言しました。私自身もこの2年間多くの皆さんと共に声をあげてきたことであり、市長の政策判断を支持します。しかし、多くの市民から懸念の声が寄せられ、また、コロナ禍という厳しい情勢の中でも推進されたIR誘致について、検証は必要です。

副市長が、IR事業への参入を目ざしていた企業・事業者からの飲食接待を受けたとされる疑惑報道についても新市長のもとで調査し説明されるべき事案です。マスクミ宛に、報道内容を否定する抗議文が発出されていますが、私は、当事者である副市長本人の主張を裏付けもなく発信しており説得性をもたない抗議であることを指摘し、再調査の必要性を訴えました。これについて、市長は、同様の認識を示し再調査を約束しました。今後も開かれた場で質していきます。



平田いくよ 議員

携帯基地局設置と地域の声

柳橋小夜子

スマートフォンや携帯電話は、もはや私たちの生活に欠かせない道具となり、多くの場面でその恩恵を受けています。しかし、一方で、生活に溢れる電磁波に健康を害されている人がいることも見逃せない事実です。

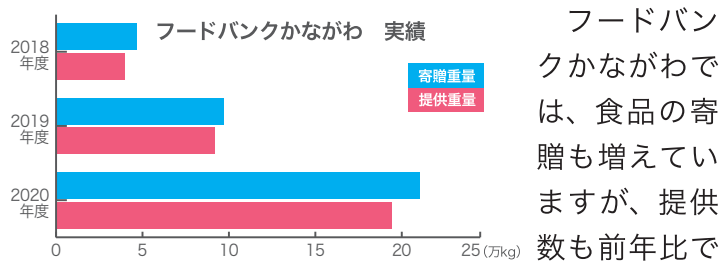
そんな中、「近所の空き地に携帯電話の基地局が立つ計画があるが、不安の声もありなんとかしたい。」という方々から相談が寄せられました。電波の基準を満たしている以上、地権者や事業者に一方的に建設中止を求めることはできないことは理解しますが、今後5G等の電波に変わった際の影響や、未だ解明されていない健康影響への懸念もあり、まずは事業者に説明会の開催を要請することとなりました。

平田いくよの市議会レポート

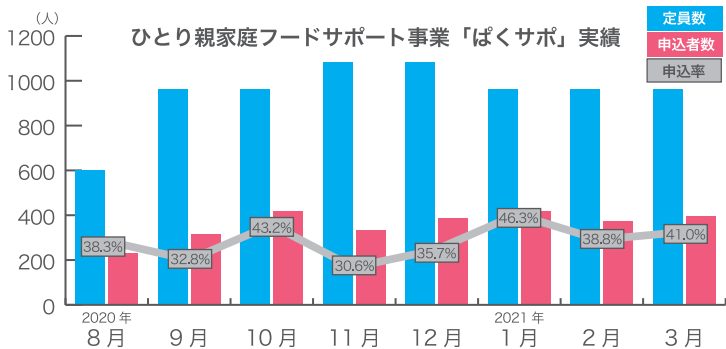
決算議会で食支援の推進を提案

長引くコロナ禍で、生活に困窮する人が増加し、食支援のニーズも増え続けています。とりわけ、地域の子ども食堂などの活動も休止を余儀なくされる中で、フードパントリーとして食品提供を行う活動に注目が集まっています。

横浜市でも、2020年度8月より、フードバンクかながわや企業からの食品寄贈を受けて、コロナ禍で生活が困窮しているひとり親世帯に提供する『ひとり親家庭フードサポート事業（ぱくサポ）』を開始しています。決算審査では、ぱくサポ事業の実施状況を踏まえ一層の食支援の推進を求めました。



2倍と爆発的に増えおり、食品の不足も心配されています。一方で、横浜市のぱくサポ事業の利用実績は提供枠の4割にも満たない状況です。



地域では、コロナ禍の課題をいち早くキャッチし食支援の取り組みが広がっています。地域の保育施設、地域子育て支援拠点、子ども食堂、コミュニティカフェなどがネットワークし、地域の資源を活かし、食材の寄付を募り、必要な人と分かち合う循環も始まっています。「食べること」を支援する取り組みは、コミュニケーションが途絶えたコロナ禍においても重要な役割を担っており、相談支援の入り口としての機能も期待されます。

決算審査では、「ぱくサポ」を始めとした横浜市の食支援についても、ニーズに寄り添い工夫を重ねるとともに、地域の取り組みと連携し必要な人に必要な支援が届くよう努めていくことを求めました。引き続き、地域の実践を踏まえ政策提案に取り組みます。

フードシェア 地域の取り組みインタビュー

vol.1 NPO 法人 スペースナナ



インタビューに答えてくれた稲邑恭子さん

設立11年目を迎えた、あざみ野「スペースナナ」。

コロナ禍で暮らし方が様変わりしたことを受けて、地域での居場所を多様な人へ開く

活動を模索しています。

フードシェア活動においては、どなたでも参加できるナナ食堂（地域食堂）を実施してきましたが、新型コロナの感染予防対策により、やむなく休業。その代替りとして昨年9月より、コロナ禍で食べることに困難を抱える方が増えたことを受け、フードバンクかながわや青葉フードシェアネットワークと連携し、余った食料品を集める「フードドライブ」を常時開設。

さらに、外国につながる子どもや、定時制高校・近隣大学に向けた学生支援をはじめ、地域で食を必要とされる方へ、月に1度お渡しする「フードパントリー」を開始しました。

活動開始から1年を経て、飛び込みでの寄付や食料品の受け取り希望もある中で、切れ目のない食料支援活動や、地域でまだ見えていない、生活に困難を抱えている方とつながるために、アウトリーチの必要性をお話いただきました。

ご家庭に賞味期限内で余っている食料品がありましたら、ぜひご寄付をお願いします！

フードドライブ 実施中

(取材・文 桂敦子)

「スペースナナ」
 OPEN: 11:00~16:00
 定休日: 月・火
 住所: 青葉区あざみ野 1-21-11
 電話: 045-482-6717
 フードドライブ:
 開店時常時
 フードパントリー:
 毎月第4土・日曜日
 11:00~16:00



地域のフードシェアの活動が探せる見つかるサイト

青葉フードシェアネットワーク

フードシェアガイド foodshare.jp

